

# JPRS Update

民田 雅人

株式会社 日本レジストリサービス

2004年7月22日

JANOG14@宮崎市民プラザ

# JPRS Update@JANOG14

1. IDNのJapanese Language TableをIANAへ登録
2. ROOTゾーンへのIPv6アドレス登録
3. JPゾーンでのホスト情報の扱いの変更
4. その後の「日本語JPナビ」

# JPRSオフィス移転しました

## 7/20(火)より新オフィスにて業務開始

- ネットワーク、ビル設備ともに信頼性とセキュリティが向上しました。今後、より安定したレジストリサービスを提供していきます。

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-8-1  
千代田ファーストビル東館13階

TEL: 03-5215-8451 (代表)

FAX: 03-5215-8452

<http://jprs.co.jp/map.html>

# IDNのJapanese Language Tableを IANAへ登録

# IDN Language Table

2004年4月13日

IANAのIDN Language Tablesに.JPのJapanese Language Tableを登録

IANAの登録受付は2004年2月末に開始

テーブルフォーマットはJET Guidelines for IDN (RFC3743、2004年4月発行) に準拠

<http://www.iana.org/assignments/idn/jp-japanese.html>

- 「汎用JPドメイン名登録等に関する技術細則」の日本語ラベルに関する部分を、世界標準様式に則って再定義したもの

<http://jprs.jp/doc/rule/saisoku-1-wideusejp.html>

# rootゾーンへのIPv6アドレス登録

# JP DNSのIPv6対応の歩み

- ・ 2000年3月  
JPゾーンへの、NSのグルーとしてのAAAA登録受付を開始
- ・ 2001年8月  
JP DNSがIPv6トランスポートに対応
- ・ 2002年2月  
ICANNに対してrootゾーンにIPv6が必要と訴える
- ・ 2002年11月  
JP DNSのIPv6アドレスの申請を試みる  
TLDとして世界初の要求だったが、技術的課題もあり、時期尚早で実現せず

# JP DNSのIPv6アドレスを rootゾーンへ登録

- 2004年7月12日

IANAでの技術検証が終了。

rootゾーンに、NSと共に登録できるグループとして、AAAAの受付が開始された。

<http://www.iana.org/procedures/delegation-data.html>

- 2004年7月13日

JP DNSのIPv6アドレスを追加する申請



2004年7月21日(日本時間)  
JPが  
TLDとして世界で初めて  
IPv6に完全対応！

KRも同時対応

2004年7月22日 FRが対応

# JP DNSのIPアドレス

a.dns.jp.	IN	A	203.119.1.1
a.dns.jp.		AAAA	2001:dc4::1
b.dns.jp.		A	202.12.30.131
c.dns.jp.		A	165.76.0.98
d.dns.jp.		A	210.138.175.244
d.dns.jp.		AAAA	2001:240::53
e.dns.jp.		A	192.50.43.53
e.dns.jp.		AAAA	2001:200:0:1::4
f.dns.jp.		A	150.100.2.3
f.dns.jp.		AAAA	2001:2f8:0:100::153

# 何が変わるのか

IPv4、IPv6デュアルスタック環境からの  
http://www.example.jp/ (IPv6対応サイト)

## DNSでのアドレスの検索

1. rootネームサーバへIPv4でアクセス
2. JP DNSへIPv6でアクセス

従来は1回目のみIPv4でアクセス

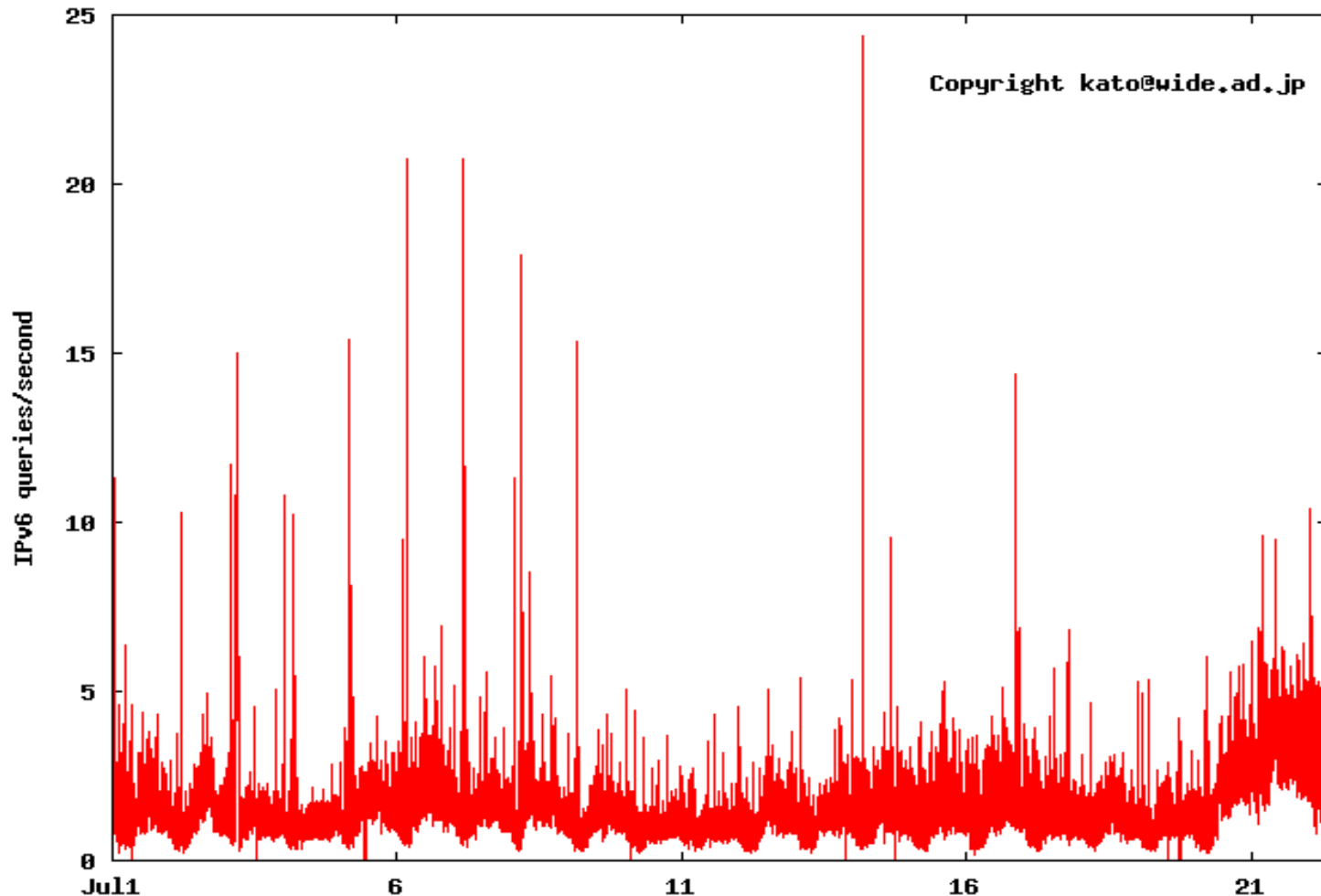
3. example.jpのネームサーバへIPv6でアクセス

http://www.example.jp/ へIPv6でアクセス

IPv6のみの世界への大きな前進

残るはrootネームサーバのIPv6化

# e.dns.jpでのIPv6トラフィックの変化



# JPゾーンでのホスト情報の扱いの変更

# JPゾーンでのホスト情報の扱いの変更

- ・ 2004年1月～6月にかけて  
    ゾーン外グループの削除
- ・ 2004年6月  
    親ドメインの無いホストの削除  
    いずれもDNS用語として一般的なものではない。  
    便宜上の呼び方。

# ゾーン外グループとは

例えば“co.jp”ゾーンのドメインのネームサーバに、“co.jp”以外のホストが設定してある場合、それらのネームサーバのIPアドレス(グループ)

example.co.jp.	IN	NS	ns1.example.ne.jp.
		NS	ns2.example.ne.jp.
ns1.example.ne.jp.		A	192.168.123.234
ns2.example.ne.jp.		A	10.12.34.56

赤字の部分がゾーン外グループ

ゾーン外グループは不要(RFC 1034, 1912)

上記例では“ns1. × .co.jp”であればゾーン内グループ(必要RR)

# ゾーン外グループの取扱変更

## 以前の仕様

ゾーン外グループもJP DNSで保持する

ドメイン名の問い合わせにおいて、ネームサーバの名前と共にグループを返した

## 現在の仕様

ゾーン外グループはJP DNSで保持しない

ドメイン名の問い合わせにおいて、ネームサーバの名前のみを返し、不要なグループは返さない



# 親ドメインの無いホストとは

ネームサーバに設定してあったホストが、ドメイン名の廃止またはNS設定の解除によって、ホスト名のみ上位ドメインに残ってしまうもの

example.co.jp.	IN	NS	ns.example.co.jp.
		NS	ns.example2.co.jp.
ns.example.co.jp.		A	10.79.123.4
ns.example2.co.jp.		A	192.168.1.1

example2.co.jpドメインを廃止すると、  
ns.example2.co.jpはグルーではなく、“co.jp”ゾーンの  
ホストとなる

# 親ドメインの無いホストの削除

親ドメインの無いホストは削除するよう変更。

JP DNSに、過去の不要な情報を抱え続けることになり、ネームサーバ中に占める量が無視できなくなる。

# その後の「日本語JPナビ」

# 日本語JPナビのおさらい

IDN非対応のブラウザで、「http://日本語JPナビ.jp/」といった日本語文字列を含んだURIを入力した場合に、IDN対応のブラウザの利用を促すもの

Windows 2000 または Windows XPの  
Internet Explorer 6.0以降がターゲットブラウザ  
詳しくは JANOG13の「JPRS Update」参照

# 麒麟ビバレッジさんのキャンペーン

著名企業が日本語ドメイン名を活用したキャンペーンを行った初めての事例

「<http://生茶.jp/>」

キャンペーン期間

6月15日から7月31日まで

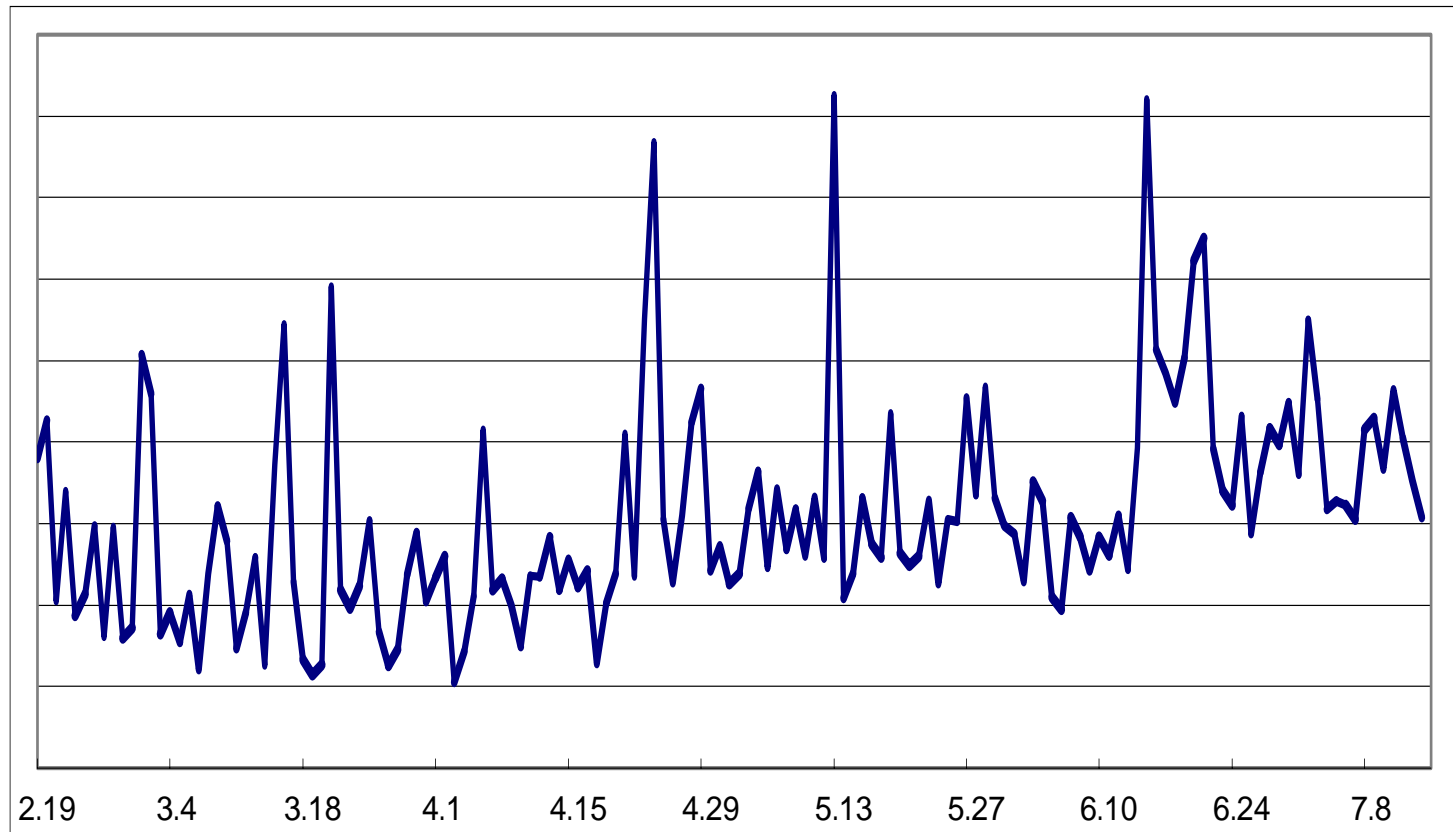
日本語ドメイン名の告知媒体

店頭での告知

自動販売機のポスター

雑誌の広告等

# 日本語JPナビアクセス数の変化



# http://jaip.jp/のアクセス数

日本語JPドメイン名アクセスの補助サイト  
JPRSのサービス

